

環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
キックオフミーティング発表資料

活動におけるテーマ

豊かな自然を活かした地域産物の
付加価値化と地産地消の推進

活動団体名：国頭村役場

活動地域：国頭村内



地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿

◆国頭村の中心産業である**農林漁業**を軸に、
持続的な自然環境と地域社会の両立、
世界自然遺産に値する**自立分散型社会**へ！

国頭村は、
2020年の世界自然遺産登録を目指し、

これを好機に、
自然豊かな「**やんばる3村**」という場所を活かした
くんじゃん

- 地域資源「**国頭だからある産物**」を地域から発信・消費促進
- 将来的には2030年を見据え、産学官連携などによる
環境配慮型の産物に対する追加的な付加価値化の前進

に取り組んでまいります。

地域の現状と課題

地域の現状

◎国頭村の概要

沖縄島最北端に位置し、世界自然遺産候補「やんばるの森」の大部分を有し、森里川海の全てがそろった『森と水とやすらぎの里』。

◎国頭村の産業の強み

農林業が建設・サービス業と並んで高水準の村内純生産。その中で『畜産』が産出額の3/4を独占。

◎国頭村にある地域資源

豊かな“自然環境”と産業を含め歴史深い“地域社会”

課題

◎現状から考える課題

- ・加工農産物ほぼない
- ・村内消費(観光・食育等)少ない
- ・希少種との軋轢あり

◎今後取り組むべき課題

地産地消・村外消費促進
→安定需要・供給→追加的価値へ

◎地域循環共生圏を活用し、解決しようとする課題

自然環境などの特性を活かした

くんじゃんもん

『国頭物』付加価値化と地産地消

地域循環共生圏を活用して目指す地域の実現のために

具体的には…

地域資源「国頭だからある産物」を地域から発信・消費促進を目指して…

◆「地産地消」といってもどこから始める？

オクマプライベートビーチ&リゾートや物産センターなど生産者から「いただきます」「ごちそうさま」が見える場所

◆どのような仕組みでアプローチしていく？

「国頭村地産地消推進協議会」を活用して

『国頭物』の付加価値化に関する方針を検討

◆どのような人を巻き込んでいくか？

安定需要と安定供給に関係する方々

+ 付加価値化の手法について長けている有識者なども

今後の事業取り組み予定

- ◆ 地産地消の促進、食育の推進
 - ◆ 自然環境を活かした農林漁業産物の付加価値化
 - ：世界自然遺産候補は、特色の異なる4島(やんばる3村、西表島、奄美大島、徳之島)から成るため、相互連携が重要
 - ◆ 各種小売店のみならず、ふるさと納税返礼品やネットショッピング等を通じた地域外消費の増強
- ↓
- ◆ 安定的な需要と供給・農産物の加工品開発
- ↓
- ◆ 周辺環境に配慮した産物の検討・開発と追加的価値の導入、環境保全対策との連携



スケジュール（令和元年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定				◇請負業者決定 ◇事務局設置 ◇キックオフミーティング				現地意見交換会		◇中間報告書提出期限 活動団体成果報告書提出◇		◇成果発表会 ◇シンポジウム
ビジョンの策定						◇地産地消推進協議会 第1回開催 (地産地消の促進・安定供給に向けた課題整理)		◇協議会第2回開催 (今後の付加価値化の方針検討、各種情報共有)		◇協議会第3回開催 (付加価値化の方針決定、各種情報共有、対外情報発信等のキックオフ)		
ステークホルダーの巻き込み							◆有識者招聘 (付加価値化・ロゴによる意識醸成を目指して)			◆現地視察		
								生産者との意見交換				
							地元企業との連携調整	企業連携による地産地消の実績構築				
								商工会や地元店舗との連携調整				
												普及啓発資料(Webコンテンツ・チラシ等)の制作